

給食だより

1月号

令和7年月1月7日

渋谷区立渋谷本町学園

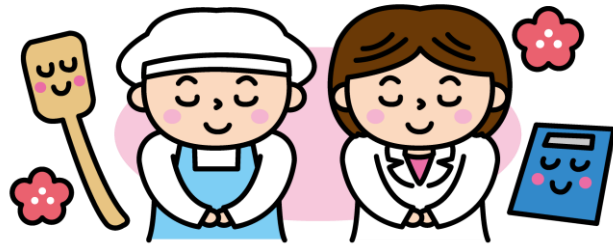
統括校長 清野 正

栄養士 甲斐 悠、山本 菜裕

新年あけましておめでとうございます。
 今年度も、残すところあと3か月となりました。
 引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、
 魅力ある給食作りに努めていきたいと思ひます。
 本年もよろしくお願ひ致します。

今年(へび)年!

へびは、食(た)べる(えもの)ときに獲(まる)物を丸(のみ)みますが、皆(みな)さん(は)、よ(か)く(む)こ(と)を意(い)識(し)して味(あ)じ(た)わ(っ)て食(た)べ(ま)し(よ)う。



1月24日~30日は、全国学校給食週間です!

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町(現:鶴岡市)の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA(アジア救済公認団体)」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日~30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会にしたいと思います。

学校給食の移り変わりを見てみよう!

明治22年

私立忠愛小学校で提供されたとして給食。

戦後(昭和20~30年代)

支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。

現在

地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。